



Annual Report 2025

1000年先まで、
いきいきとした
まちでありたい。



大丸有^{*1}サステイナブルビジョンの実現に向けて

一般社団法人大丸有環境共生型まちづくり推進協会（通称エコツェリア協会）は地球規模の環境問題に都市として対応すべき様々な「環境共生型まちづくり」の取組を推進する団体として2007年に誕生しました。

私たちは「大丸有サステイナブルビジョン^{*2}」の実現に向け、これまでの財産であるソーシャルキャピタルを基盤に、より良いまちづくりや、社会課題の解決を目指す「CSVビジネス創発プラットフォーム」を運営する法人として、ビジネス交流施設「3×3Lab Future」を拠点に、会員や産学官、地方自治体などを始め、多様な人材や情報が集まり交流するための様々な企画やプロジェクトを推進しています。

「1000年先まで、いきいきとしたまち」であるために、大丸有地区がもつ知識の集積とネットワークを活かし、さまざまな人とビジネスを巻き込み、新たな価値創造を世界へと波及させていきます。

*1... 大手町・丸の内・有楽町

*2... 大丸有サステイナブルビジョンについてはこちらからご覧ください

<https://www.ecozzeria.jp/about/machi.html>



主な取組

プロジェクトの企画・運営

主要テーマを軸に、外部パートナー等との連携により、3×3Lab Futureの各種コミュニティを巻き込んで、新たな価値につながる取組の企画検討や、実証実験等を行っています。

研究調査(R&D)

施設やまち全体をフィールドに主に技術・テクノロジーを活用して社会課題解決やサステイナブルなまちづくりに資する新たな機能検討・実証実験を推進しています。

【テーマ事例】脱炭素、自然共生、資源循環、健康で幸福な社会、エネルギー、グリーンインフラ、都市データ活用、他

施設の運営、コミュニティ形成および交流促進

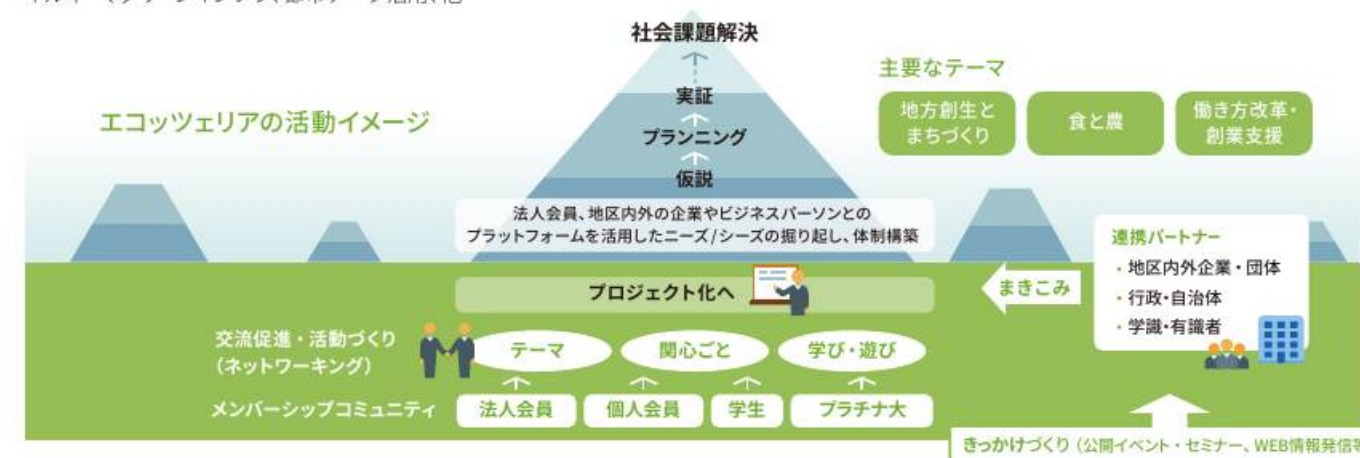
多様な人々が集まりやすい「場」の運営と、参加の「きっかけ」づくりおよび交流・つながりをつくる「仕組み」の運営をしています。

①「場」としての施設の運営（ハード）

② コミュニティ形成と交流促進（ソフト）

【コミュニティ形成】きっかけづくり：公開イベント、セミナー、情報発信等、メンバーシップ運営：法人会員、個人会員、学生、就業者（丸の内プラチナ大学等）

【交流促進・活動づくり】ネットワーキング、共通テーマや関心事を軸としたチームや活動づくり、ビジネス創発イベント企画実施



大手町・丸の内・有楽町地区

三位一体のまちづくり

日本を代表するビジネス街、大手町・丸の内・有楽町の頭文字を取って「大丸有（だいまるゆう）」と呼び、3つの地区を合わせた約120haのエリアを「大丸有地区」と総称します。大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会、大丸有エリアマネジメント協会と共に、3つのまちづくり団体が「合意形成」「運営管理」「課題解決」の役割を分担し、相互に連携・協力しながら、他の街には見られない、三位一体のまちづくり、エリアマネジメントを推進しています。

3つのまちづくり団体



大手町・丸の内・有楽町地区 まちづくりガイドライン

大丸有地区の将来像を共有し、まちづくりを進めるための指針を示したものです。大丸有サステイナブルビジョンと共にエコツェリア協会の行動指針となっています。

大丸有エネルギーエリアビジョン

都市におけるエネルギーの諸課題へ取組むために掲げる未来像と方向性を導出し取りまとめたもの。大丸有まちづくり協議会とエコツェリア協会が事務局を担う「大丸有エネルギーエリアビジョン委員会」が策定しました。



リガール大丸有を中心に大丸有まちづくり協議会、エコツェリア協会が参画の実行委員会で開催した夏休みの体験型ワークショップ「エコキッズ探検隊」（過年度の様子）

大丸有地区全体で展開する様々な活動・全国各地とのつながり

- ① 丸の内プラチナ大学（アートフルライフコース） | 三菱一号館美術館
- ② 丸の内ハニープロジェクト | 丸の内仲通り（ハンギングバスケット）[2-1]、大手町ビル屋上 [2-2]
- ③ 大丸有シゼンノコパン | ホトリア広場 [3-1]、Otemachi One GARDEN [3-2]、大手町の森 [3-3]、大手町ビル屋上 [3-4]
- ④ 大丸有エリアまち育プロジェクト | 川端緑道
- ⑤ 大手町ラボフェス | 大手町ビル MIRAI LAB PALETTE (2F)、Inspired.Lab (6F)、AgVenture Lab (9F)
- ⑥ 大丸有フォトアーカイブ | GOOD DESIGN Marunouchi [6-1]、川端緑道 [6-2]



① 連携協定締結地域等

宮崎県、北海道、長崎県、福井県、奈良県、① 宮崎市、② 浜松市、③ 御殿場市

② 視察先地域（2025年度）

① 地方創生ビジョン検討会*1

群馬県太田市、新潟県妙高市、香川県小豆島、島根県、長崎県五島市

② 丸の内プラチナ大学 逆参勤交代*2コース

北海道美瑛市、北海道士幌町、石川県七尾市、高知県須崎市、長崎県壱岐市

③ 丸の内プラチナ大学 アグリ・フードビジネスコース

群馬県太田市、茨城県常陸大宮市、千葉県香取市

④ 丸の内プラチナ大学 繋がる観光創造コース

宮崎県小林市



*1... エコツォリア協会は「地方創生」を重要な社会課題と位置づけ、都市と地域の関係性向上の必要性を早くから認識し、大丸有地区の人的・経済的リソースを活かして地域課題の解決を支援するとともに、地域の魅力を都市に伝え、相互の学びと活力向上につながる連携基盤を築いてきました。一方、急速に変化する社会環境に対応し、連携の価値をさらに高め持続的な活動へ発展させるため、これまでの実践を整理・体系化するとともに、有識者との検討や実地調査を通じて長期戦略を策定し、都市と地域が自律的に共存共栄できる未来シナリオと、今後取組む具体的な活動を模索するため「地方創生ビジョン検討会」を2023年度に立ち上げました。

*2... 都市のビジネスパーソンと地域が協働し、地域課題の解決や新たな魅力創出に取組む共創プロジェクトです。丸の内プラチナ大学(P9)の「逆参勤交代コース」として実施するほか、地域との継続的な交流や共創プロジェクトを展開しています。



2025 TOPICS

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
丸の内コミュニケーション本格始動 (4月～8月上旬)	丸の内ハニープロジェクトWorld Bee Day (世界ミツバチの日) イベント	丸の内ハニープロジェクト開始 丸の内ハニープロジェクトWorld Bee Day (世界ミツバチの日) イベント	法人会員視察ツアー1回目	大手町ラボフェス CSV経営サロン第1回 丸の内サマーカレッジ	丸の内プラチナ大学10期スタート(～3月)	CSV経営サロン第2回	理事会	大丸有ゼロカーボンスクール 「カーボンニュートラルなまちづくり」 出版記念講演	丸の内ハニープロジェクト10年記念イベント CSV経営サロン第3回	法人会員視察ツアー2回目 大丸有フォトアーカイブ「みんなの写真展」



法人会員等との取組

様々なワーキンググループ（研究会）への参加や、環境、CSR、まちづくり推進に関する活動を共にする法人会員等の皆様と、セミナーや視察、実証実験等に取組みました。

CSV経営サロン

社会課題を事業機会へ変える学びと対話の場 2025年度は「資源循環」をテーマに開催

企業が社会課題や環境課題を新たな事業機会として捉え、持続可能な経営の実現につなげることを目的とした会員向けプログラムです。様々な分野の有識者や先進企業を招き、最新の政策動向や事業事例を学ぶとともに、参加者同士の対話やネットワーク構築を促す場として運営しています。また、発足当初から東京大学先端科学技術研究センター研究顧問の小林光氏に座長を、2017年からは一般社団法人バーチャデザイン代表理事の吉高まり氏に副座長をお願いし現在に至っています。

2025年度は「資源循環」を年間テーマに掲げ、企業に求められる循環型経営のあり方について多角的に議論しました。第1回では国際プラスチック条約をテーマに、国際ルール形成の最新動向と企

業に求められる対応を考察。第2回では資源回収とリサイクルを取り上げ、地域コミュニティと連携した回収スキームや高度な再資源化の取組について学びました。第3回では有機性資源のアップサイクルをテーマに、下水汚泥由来肥料や持続可能な航空燃料（SAF）の事例を通じて、新たな資源循環ビジネスの可能性と課題を共有しました。

2025年度実施内容

- 第1回 国際プラスチック条約の動向と企業に求められること
- 第2回 資源の回収からリサイクルまで
- 第3回 資源循環の出口、有機性資源のアップサイクル



法人会員視察ツアー

先進事例から学び、企業・地域・人をつなぐフィールドワーク



社会課題の解決や新たな価値創造に取組む先進企業・施設を訪問し、会員同士の知見共有や連携のきっかけづくりのため視察ツアーを開催しています。2025年度は「カーボンニュートラル」、「地域共創」、「サーキュラーエコノミー」をテーマに、東京ガス様の技術開発拠点横浜テクノステーション、北海道を中心に事業展開するサツドラホールディングス様が運営する地域共創拠点EZOHUB TOKYO、リビエラリゾート様が運営するリビエラ逗子マリーナを視察。脱炭素技術の最前線や地域課題解決に向けた官民連携の実践事例、サーキュラーエコノミーの実践を学ぶとともに、新たな連携や共創の可能性を探りました。今後も、現場での学びと対話を通じて、参加者の価値創造とネットワーク形成を支援していきます。

実証実験・展示

エアリーソリューション・スポット気流

パナソニックエレクトリックワークス

清潔・快適な空気環境づくりに向け、パナソニックエレクトリックワークス様と連携し、3×3Lab Futureコミュニケーションゾーンの打合せスペースには、空気の清浄化、香りによるリラックス効果を目的にエアリーソリューションを設置。また、同施設内サロンにも、温度ムラの改善、空気の滞留抑制等の効果があるスポット気流を設置し、快適性の検証を実施しました。



「いきもののアイ®」

竹中工務店

竹中工務店様が開発した生物自動モニタリングシステム「いきもののアイ®」の実証に協力しました。大手町ホトリア広場をフィールドとして、AIとIoTを活用した鳥類調査を実施し、水辺を利用する野鳥を自動で撮影・識別。確認された鳥類の映像や生態情報は3×3Lab Future内のモニターで紹介し、来館者が都市の生物多様性に触れる機会を創出しました。本取組は、都市における生物相の可視化と環境コミュニケーションの新たな手法として、その活用可能性を検証しました。



超小集電技術の展示

オフグリッド・デザインコンソーシアム

様々な自然物を媒体としてイオン反応により発生する小さな電気を集める「超小集電（Micropower Collection：MPC）」の超小集電技術を活かし新たなサービス、新たな産業や価値創造等に取組むオフグリッド・デザインコンソーシアム様に共感し、2025年12月から3×3Lab Futureにおいて超小集電技術の作品を展示、啓発活動の協力を行ってしました。この超小集電技術の本質は、一つの製品を生み出すことではなく、廃棄物や地域資源を電力の原料として活用できる「仕組み」を提供する点にあります。単に発電する技術に留まらず、脱炭素や資源循環の観点からも複合的な意義を持つ取組として、その啓発活動に協力してしました。今後もこの技術の発展に注目していきます。



スマートワークスペース 東京科学大学

エコツェリア協会と東京科学大学（旧東京工業大学）様を中心に、ワーキンググループ参画企業と連携して、これからの働き方やオフィスのあり方を探る「スマートワークスペース」の実証実験を実施しました。テクノロジーを活用し、働く人の行動やコミュニケーション、偶発的な出会い、集中と交流のバランスなどを検証。大学の研究知見と企業の技術・サービス、3×3Lab Futureのコミュニティ運営の知見を掛け合わせ、ウェルビーイングや共創を促す次世代のワークスペースづくりを、産学連携で探っていきました。



学びと実践のプラットフォーム

学生からビジネスパーソンまで多様な人や組織が出会い、学び合い、対話する機会を創出。

学びを実践につなげ、コミュニティを起点とした共創を通じて、未来の社会を形づくる新たな価値を生み出すことを目指します。

丸の内サマーカレッジ2025

学びと対話を通じて、未来への一歩を踏み出す3日間



高校生・大学生・大学院生を対象に、社会課題解決や地域づくり、キャリア形成、グローバルな視点、コミュニティ形成など多様なテーマについて学び、将来の社会やキャリアについて考えを深める、夏休み期間を利用した3日間の探究型プログラムです。

2025年度に8回目の開催を迎えた本プログラムでは、社会の第一線で活躍する8名の実践者による講演に加え、フィールドワークやグループワークを実施し、知識の習得だけでなく対話を通じた学びの機会を提供しました。多様な実践者や学生同士の対話を通じて、社会課題を自分ごととして捉え、自ら考え行動する力を育み、他学の仲間との出会いは、プログラム終了後も継続する学びや活動の基盤となり、新たな挑戦への後押しにもつながっています。

講演

8名の講師による講演では、「学びを実践へ発展させる」という視点や、社会課題に向き合いながら豊かな社会の実現を目指す取組、グローバルな環境で活躍するための考え方、多様なキャリア形成のあり方、人と人をつなぐコミュニティや仕組みづくりなどが紹介されました。学生はそれぞれの講師の経験や価値観に触れながら、自身の将来像や社会との関わり方について見つめ直す機会となりました。



グループワーク

プログラム後半では、自分を主語とした「創りたい未来に向けて『わたし』ができること」をテーマに、自分たちにできる取組やプロジェクトのアイデアについてグループワークを行いました。地域活性化や環境問題、多様性、コミュニティ形成など、各学生が関心を持つテーマについて対話しながら自由に議論を行いました。他学の学生同士が対話を重ねる中で、多角的な視点から課題を捉え直し、講演やフィールドワークで得た気づきをもとに議論を深めることで、問題意識を具体的な行動案へと発展させていきます。時には他のグループと意見交換を行ったり、ディスカッションを進める中でアイデアを練り直したりする姿も見られました。プログラムの集大成として、グループごとに発表しました。それぞれのグループは有識者の講評を受け、発表内容をさらに磨き上げる視点をいただきました。また、他のグループの発表を通じて、新たなアイデアや気づきに触れ、学びを共有する機会ともなりました。プログラム終了後も、学生同士で連絡先を交換したり講師に質問をしたりと、最後まで対話や交流を楽しみました。



今後も、これからの日本を担っていく高校生・大学生等が社会課題解決やまちづくり、グローバルな視点など、多様なテーマに触れ、対話する機会を提供するとともに、プログラムを通じて生まれる「人のつながり」の重要性を体感できる場をつくっていきます。

フィールドワーク

大丸有地区を舞台としたフィールドワーク（まち歩き）では、エリアマネジメントやまちづくりの取組について学び、企業や行政、地域関係者が連携しながら持続可能な都市運営を進めている現場を体感しました。スタッフが各所を紹介しながら実際にまちを歩くことで、社会課題とまちづくりの関係性、多様な主体の協働による価値創造について理解を深めました。



さんさんネクスト

若手社会人が出会い、学び、未来への一歩を踏み出すコミュニティ

若手社会人向けのプログラムです。社会課題への関心や挑戦したい思いを持ちながらも、日々の業務の中で新たな学びや出会いの機会が限られている若手社会人に、業種や企業の枠を越えて集い、対話し、刺激し合える場を創出しています。

2025年5月にスタートし、月1回、計11回開催しました。食、まちづくり、AI、起業など多様な分野で活躍する同世代の実践者をゲストに迎え、それぞれの挑戦や経験を共有するとともに、参加者同士による対話と交流を通じて学びを深めました。

延べ168名が参加し、新たな人脈形成や自身のキャリア・価値観の見直しにつながったほか、エコツツエリア協会主催の他のプログラムへの参加や、新たな活動・企画への参画など、次のアクションにつながる事例も生まれています。また、イベント終了後も参加者同士の交流が継続し、将来の働き方や社会課題について気軽に語り合えるコミュニティへと発展しています。

今後も、若手社会人同士の交流と学びを通じて、新たな挑戦や共創のきっかけを生み出す場づくりを進めていきます。



丸の内プラチナ大学 第10期

人と地域をつなぎ、未来を共創する学びのプラットフォーム



学生からビジネスパーソン、シニアまで多世代の参加者が集い、社会課題や地域課題をテーマに学び、交流し、実践につなげる人材育成プログラムです。地域創生、起業、食と農、観光、アート、再生可能エネルギー、ウェルビーイングなど幅広いテーマを取り上げ、各分野の第一線で活躍する講師や地域の実践者との対話を通じて、新たな知見や人的ネットワークを築いています。

2025年度は、全9コースを開講しました。逆参勤交代コースやアグリ・フードビジネスコースでは地域や農園を訪ねるフィールドワー

ク、ライフシフト起業コースでの実践的な起業支援、ウェルビーイングライフデザインコースでの人生設計の探究なども行いました。受講生は講義に加え、フィールドワークや体験型プログラム、参加者同士の交流を通じて課題を自分事として捉え、多様な価値観に触れながら学びを深めていきました。今後も、受講生、講師、地域とのつながりをさらに広げながら多様な人々が学びを通じて出会い、新たな挑戦につながる場づくりを進めることで、社会課題の解決や地域との共創につながる行動を後押ししていきます。



環境R&D プロジェクト

施設やまちを実証フィールドに、脱炭素や自然共生をはじめとする社会課題の解決に向けた研究・実証を推進。
多様なパートナーとの共創により、持続可能な都市の新たな価値創造に取り組んでいます。

丸の内ハニープロジェクト

ミツバチがつなく、まちと緑の10年



都心のビル屋上でミツバチを育て、採れたのはちみつを地域で活用することで、人と自然、人と人、人とまちをつなぐことを目指す都市養蜂プロジェクトです。エコツツェリア協会は丸の内ハニープロジェクト実行委員会の事務局を担っています。

大丸有地区は日本を代表するビジネス街である一方、皇居や日比谷公園、街路樹、企業緑地など豊かな緑にも恵まれています。ミツバチは半径2～4kmの範囲を飛び回りながら花粉や蜜を集めており、その活動を通じて都市に存在する自然のつながりを可視化しています。

2025年度は大手町ビル屋上を拠点に養蜂活動を実施し、延べ約310人が参加、年間約800kgのはちみつを採蜜しました。採れたはちみつは地区内のホテルやレストラン、菓子店などで活用され、大丸有ならではの地域資源として親しまれています。養蜂活動には企業の就業者が参加し、採蜜や飼育管理を通じて交流を深めることで、コミュニティ形成や環境意識の向上にもつながっています。こうした活動は、地区の豊かな自然と共生する環境都市・健康都市の実現を目指す本プロジェクトの重要な基盤となっています。

屋上からまちへ ～自然と共生するまちづくりに向けて～

ミツバチやチョウなどの「ポリネーター」は、花の蜜や花粉を集めるだけでなく、植物の受粉を助ける重要な役割を担っており、食料安全保障や生物多様性の保全に欠かせない存在です。

丸の内ハニープロジェクトでは、はちみつを採るだけでなく、ミツバチを通じたまちの緑環境の調査も実施しています。はちみつに含まれる花粉のDNAを解析することで、ミツバチが利用した植物の種類や季節ごとの変化を把握しています。調査の結果、ミツバチが利用する植物は時期によって大きく変化していることが分かっており、都市の中でも多様な植物が蜜源として機能していることが明らかになっています。

加えて2025年度は、試験的に蜜源となる植栽を植えることでどれだけポリネーターが訪れるかについても実証実験を実施、実際に大幅な増加がみられることも確認しました。得られた知見はまちの植栽計画や緑地管理へ反映され、生物多様性に配慮した都市づくりの推進に活用されています。ミツバチを通じて都市の自然環境を科学的に把握し、その成果を実際のまちづくりにつなげている点は、本プロジェクトの大きな特徴です。

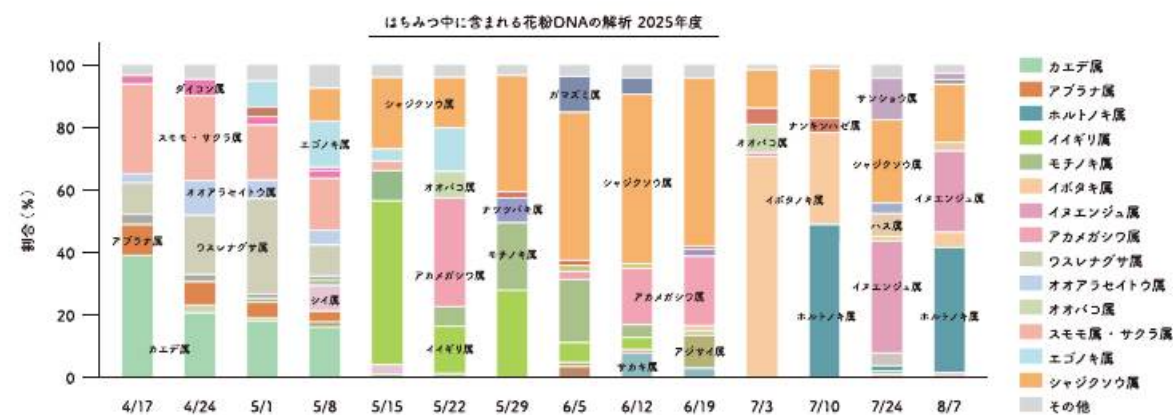
また、5月20日にはWorld Bee Day (世界ミツバチの日) に合わせた普及啓発イベントを開催し、ミツバチと生物多様性の関係や都市養

蜂の意義を広く発信しました。地区内企業の就業者や来街者が参加し、都市の自然環境や生態系サービスについて理解を深める機会を提供しています。こうした活動を通じて、生物多様性を身近なテーマとして捉えるきっかけづくりを進めました。

活動10年目、また次の10年に向けて

2025年度で活動10年目を迎える本プロジェクト。これまでのプロジェクトの歩みと成果を次世代へ継承するため、過去10年間の活動をまとめた「丸の内ハニープロジェクト10年記念誌」を作成しました。記念誌では、養蜂活動の歴史に加え、花粉DNA分析による研究成果、蜜源植物調査、企業・地域との連携、環境教育や情報発信など、多岐にわたる取組を整理しています。また、10年記念イベントも開催し、多くの関係者が活動成果を共有するとともに、都市養蜂の新たな可能性について意見交換を行いました。

丸の内ハニープロジェクトは、養蜂活動を入口として、生物多様性保全、環境教育、地域コミュニティ形成、企業連携を実現するプラットフォームへと発展しています。エコツェリア協会は今後も実行委員会事務局として、多様な主体との協働を推進しながら、都市の自然資本の価値を可視化し、人と自然が共生する持続可能なまちづくりに貢献していきます。



大丸有シゼンノコパン

ソトへ出よう。ソトを知ろう。大丸有でつながるネイチャープログラム

大丸有地区に広がる緑地や生きものとのつながりを通じて、人と自然、人と人、人とまちを結び、新たな発見や交流を生み出すことを目的としたネイチャープログラムです（「コパン」は仏語で「友達」）。大丸有エリア生物多様性連絡会を構成する東京建物、三井物産、三井不動産、三菱地所の4社とエコツェリア協会が連携し、都市における生物多様性への理解促進や地域への愛着醸成を目指して実施しています。

2025年度は、まちの四季や生きもの、緑地、星空などをテーマに、多様な体験型プログラムを展開しました。丸の内ハニープロジェクトと連携しミツバチと蜜源植物の関係を学ぶ企画を実施したほか、樹木医とともに都市の植物を観察し、人と植物の歴史的な関わりを学ぶまち歩きや、ビルや樹々の隙間から星空を望む天体観察会も開催。親子向けには、水辺の生きもの観察や自然素材を活用したアートプログラムを実施しました。これらの活動を通じて、参加者が都市の自然の価値や生物多様性の重要性を身近に感じる機会を提供しています。



大丸有エリアまち育プロジェクト

まちが育む、まちを育む

子どもの視点をまちづくりに活かすことを目的として、2021年から推進しています。大丸有地区には多くの保育施設がありますが、園庭を持たない施設も多く、企業緑地や公開空地が子どもたちの日常的な遊びや学びの場となっています。本プロジェクトでは、保育施設へのヒアリングや園児の行動観察を通じて、子どもたちの“非言語の声”を把握し、その知見をまちづくりに反映する取組を進めています。

2025年度は企業緑地を活用した環境教育プログラムを年間9回実施し、延べ370名の園児と保育者が参加しました。また、保育施設

や関係者による「大丸有エリアまち育連絡会」を開催するとともに、各緑地管理者とも対話を重ね、緑地でどんな遊びをしてよいかをまとめた「いいねリスト」の作成や子どもと大人が共存できるまちの考え方を整理した「大丸有エリアまち育パターンランゲージ」を作成・公開しました。こうした活動を通じて得られた知見は、ホトリア広場への低ベンチ設置など実際の空間改善にも活かされています。これらの取組を通じて、子どもも大人も心地よく過ごせる都市環境づくりを進めています。



大丸有環境アトラス / TOKYO OASIS

環境データを活用した快適なまち歩きを目指して

大丸有地区の環境データを集約したデータプラットフォーム「大丸有環境アトラス」を制作運用しています。本プラットフォームを活用し、都市のアップデート（まちのハード部分の更新）、都市の体験の充実（まちのソフト部分の充実）、人々の行動変容を促し、まちの価値向上サイクルの創出を目指しています。その取組の一つとして、環境アトラスのデータを活用したWebサービス「TOKYO OASIS」を展開しています。TOKYO OASISは気候変動による酷暑への対応を主目的に2020年度に公開したまち歩き支援サービスです。大丸有地区における日陰や地下通路、快適に過ごせるスポット等の情報を可視化し、まちをより快適に楽しむための情報を提供しています。本サービスは継続的なデータ更新や機能拡充を重ね、酷暑対策に留まらず、「快適」をテーマにサービス内容を充実させてきました。特に大丸有地区の特徴である豊かな緑環境を可視化している点は特長となっています。また、データ収集やサービスの開発・運用にあたっては、エコツェリア協会が事務局を担う産官学によるコンソーシアム「Green Tokyo 研究会」と連携し、学術的知見や専門的な視点を取り入れながら、産官学共創による取組を推進しています。

<https://tokyooasis.com/>



大丸有ゼロカーボンスクール

丸の内で学ぶ地球と未来のこと

2025年度に新たに開講した、大丸有地区の就業者等を対象としたカーボンニュートラルの学びと交流のプログラムです。第1クール（6月）では東京大学先端科学技術研究センター研究顧問の小林光氏を招き「カーボンニュートラルの経済学」をテーマに開催しました。第2クール（9月）では脱炭素時代の企業戦略と市場評価をテーマにS&P500グローバルマネージングディレクターの大町興二氏のご講演。第3クール（12月）では地域新電力による都市と地方をつなぐ可能性を、ローカルエナジー社COOの上保裕典氏から学びました。また同月には特別セミナー「カーボンニュートラルなまち



大丸有エネルギーエリアビジョン

「活力と創造性に溢れる日本らしい世界一のビジネスセンターであり続ける」を基本コンセプトに「2050年にカーボンマイナスを実現するため、大丸有地区のステークホルダーが共に取組む」ビジョンです。

づくり（東大まちづくり大学院シリーズ刊）出版記念講演」を実施。エコツェリア協会の伊藤滋理事長と東京大学まちづくり大学院の小泉秀樹コース長とのクロストークも行いました。第4クール（3月）には、丸の内熱供給様ご協力のもと、大丸有地区を支える熱供給ネットワークの変遷と施設見学、同社開発技術部の森村平氏による講演を通じて、大丸有地区全体におけるエネルギー循環の最前線を学びました。今後も年間を通じて大丸有地区全体で脱炭素に取組む機運を醸成いたします。



3×3Lab Futureコミュニティ

2016年のオープン以来、3×3Lab Futureは社会課題解決を目的として、企業や団体を超えた連携によるプロジェクト推進やネットワーク構築に向けて活動してまいりました。会員の皆様との取組みや、ここから生まれたプロジェクトをご紹介します。

3×3Lab Future個人会員

業種を越えてつながる、未来を共創するコミュニティ

個人会員は、業種や立場を越えて多様な人々とつながり、社会・地域の課題をテーマに対話や交流を通じて学びを深めています。会員は学生からシニアまで幅広く、所属やバックグラウンドもさまざまです。入会にあたっては専任スタッフによる面談を実施し、一人ひとりの関心やこれまでの活動を伺いながら、会員同士のつながりや活動をサポートしています。まちづくり、地域活性化、ウェルビーイング、環境、テクノロジーなど

幅広いテーマのイベントやプロジェクトに参加し、知識や経験を共有。企業・行政・地域・個人をつなぐ「共創」の場として、新たなアイデアや協働の機会を生み出し、社会課題の解決や未来の暮らし・働き方を考える活動を展開しています。2025年度は8月に大手町の3つのラボと連携した「大手町ラボフェス」を開催。施設を越えたコラボレーションを生み出すきっかけづくりにも取り組んでいます。



丸の内コミュナ大学

企業の共創力を高める人材を育成

企業の中で「人と人」「組織と組織」「企業と地域」をつなぎ、新たな価値を生み出すコミュニティマネージャーを育成する学びのプログラムです。社内外の多様な人材との関係構築、対話や場づくり、共創プロジェクトの企画・運営など、これからの企業活動に求められる実践的なスキルを学んでいます。2025年度に開講し、コミュニティマネージャー育成を手掛ける企業や、ワークプレイスの空間デザインを手掛ける企業の代表を講師に

迎え、講演やクロストークイベントを計4回開催、研究会も立ち上げました。参加者同士の交流や実践を通じて、組織の壁を越えたネットワークを形成するとともに、社員の主体性や創造性を引き出し、新規事業、地域連携、社会課題解決につながる共創を促進します。企業の持続的な成長を支える「つなぐ人材」の育成を目指します。



大丸有フォトアーカイブ



まちの魅力を発見し、共有するフォトコミュニティ

まちに集う人々の目線で日々の風景や変化を捉え、その気づきを写真で共有するコミュニティの形成と、まちのリアルな空気や魅力を発信しアーカイブ化することを目的として2022年に始動したプロジェクトです。

主な活動は年数回開催する撮影会で、プロ写真家のアドバイスを受けながら撮影を楽しみ、撮影後の共有会では参加者同士が気づきを語り合うことで、新たな交流や発見が生まれています。また、撮影された写真をまちの情報媒体や写真展などを通じて発信することで、大丸有地区の新たな魅力を多くの人に届けるとともに、まちを訪

れ、歩き、楽しむきっかけづくりになることを目指しています。

2025年度は計4回の撮影会を実施。まちの様々な場所で、風景や人物、生き物など毎回違うテーマを設定。スマホでの撮影も可とし経験を問わず気軽に参加できる機会を提供したことで、コミュニティメンバーも125人になりました。また2月にはGOOD DESIGN Marunouchiとの共催で「みんなの写真展～まちの魅力～」を開催。応募総数711点から50作品を展示し10日間で1,000人を越える来館がありました。



「みんなの写真展」展示作品（一部）

※撮影者敬称略



幻想的な皇居外苑 / merce



リフレクション / 熊本淑子



信任状捧呈式 / 岡村真美



「旅、ここから」 / 外川裕一



さあ今日も張り切っていきましょー / 加藤文康



疾走する未来 / 岩田 大作



影と光の間に / 梶田豊



シアワセになるう！ / 三好久美子



うちへ帰ろう / 堀江仁美



Far Two / 田中雅子

エコツェリア協会法人会員

2025年度は3法人がご加入され、全46の会員の皆様と共に、サステイナブルな社会づくりに取り組みました。

NPO法人 大丸有エリアマネジメント協会
一般社団法人 大手町・丸の内・有楽町地区まちづくり協議会
株式会社日本政策投資銀行
株式会社東京国際フォーラム
株式会社サンケイビル
大成建設株式会社
東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社
NTT東日本株式会社
東日本旅客鉄道株式会社
丸の内熱供給株式会社
三菱地所株式会社
株式会社三菱UFJ銀行
株式会社読売新聞西部本社 ★
エーシーシステムサービス株式会社
株式会社大林組
鹿島建設株式会社
小岩井農牧株式会社
清水建設株式会社
株式会社ジェイアール東日本企画
株式会社竹中工務店
一般財団法人電力中央研究所
株式会社ティップネス
デロイトトーマツ合同会社

戸田建設株式会社
パナソニックエレクトリックワークス株式会社
三菱地所レジデンス株式会社
三菱電機株式会社
株式会社三菱地所設計
Pacific Spatial Solutions 株式会社
株式会社イトーキ
東テック株式会社
ダイキン工業株式会社
株式会社日本能率協会マネジメントセンター
カールツァイス株式会社
公益財団法人 東京都環境公社
日本製紙クレシア株式会社
一般社団法人プラチナ構想ネットワーク
デジタルプロモーション株式会社
長崎県 ★
岩手わかすフェス実行委員会 ★
株式会社クリーン
一般社団法人産業人文学研究所
NPO法人都市環境フォーラム（フォーラム環境塾）
一般社団法人人口ハスクラブ
一般社団法人人口ハス・ビジネス・アライアンス
一般社団法人日本ワーケーション協会

★は2025年度新規入会された法人会員様

ECOZZERIA

法人概要

団体正式名称	一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会
設立	2007年6月
所在	東京都千代田区大手町1-1-2 大手門タワー・ENEOSビル1階「3×3Lab Future」
社員	三菱地所株式会社、東京ガスエンジニアリングソリューションズ株式会社、三菱電機株式会社、丸の内熱供給株式会社、NPO法人大丸有エリアマネジメント協会
理事	16人
監事	2人

連携協定

連携協定締結自治体	8地域
自治体からの出向スタッフ受入	3地域
連携協定締結大学	2法人

3×3Lab Future

来館者数	24,504人
ビジネス交流イベント	121件
3×3Lab Future 個人会員数	341人
実証実験の導入件数	6件
展示機能の導入	5件

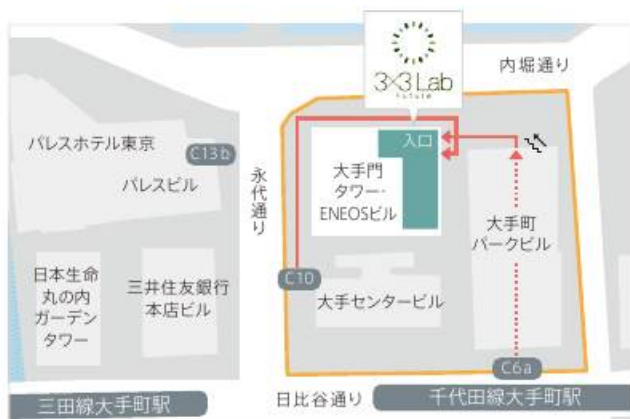


一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会

東京都千代田区大手町1-1-2

大手門タワー・ENEOSビル1F 3×3Lab Future

<https://www.ecozzeria.jp/>



東京メトロ（東西線・千代田線・半蔵門線・丸ノ内線・都営三田線）
「大手町」駅（C10出口）より徒歩約2分

2026年9月発行

表紙写真撮影：yasuyuki suzuki様

発行：一般社団法人 大丸有環境共生型まちづくり推進協会